

地域研究会 アフリカ

時間：15:00～17:00
参加無料、予約不要

第237回 2018年10月18日(木)

企業が変わるアフリカ 白戸 圭一

(立命館大学国際関係学部・教授)



海外からの投資を根柢に経済成長を続けるアフリカでは、市場企業による中間層向け消費ビジネスが台頭し、携帯電話による電子決済を基盤としたITビジネスの発展など、世界最先端のビジネスが展開されている。講演では、これらの企業活動がアフリカ社会の発展に果たす役割と課題について考えたい。

会場：京都大学稲盛財団記念館3階 大会議室



KEIICHI SHIRATO

第238回 2018年11月15日(木)

サブサハラアフリカの 妊産婦死亡を減らすために

新福 洋子

(京大大学院医学研究科・准教授)



YOKO SHIMPUKU

アフリカの女性たちは、妊娠・出産時、死をある程度考える。妊産婦死亡の多くは、適切な医療介入がなされれば、予防しうるものである。しかしながら、そもそも医療施設に行かない、行こうとしてもたどり着けない、着いたのに迅速な対応がなされない、3つの遅れによって、それが妨げられている。この10年で展開してきた助産師教育の強化、妊婦とその家族への妊娠期教育、伝統的産婆の活用などの3つのアプローチを紹介する。

会場：京都大学稲盛財団記念館3階 中会議室



第239回 2018年12月20日(木)

東アフリカにおける民衆のイスラームは何を語るか？ タリーカとスンナの医学

藤井 千晶

(京大大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・特任准教授)

東アフリカ沿岸部は、住民の多くがイスラーム教徒であるにもかかわらず、「土着的要素が混交した」イスラームと捉えられてきたため、研究の蓄積が少ない。そこで本発表では、民衆にイスラームを普及させたタリーカ(スーフィー教団)と、近年盛んに実践されているスンナの医学(預言者ムハンマドの言行に基づく医学)に焦点を当て、人々のイスラーム実践や世界観を考察する。人々が常に「正しいイスラームとはなにか」を模索し、時代の流れに応じて柔軟に実践や解釈を変化させてきたことを示したい。

会場：京都大学稲盛財団記念館3階 318室



CHIAKI FUJII

第240回 2019年1月17日(木)

ナイルは誰のものか？ 水資源の配分をめぐるナイル川 流域諸国間の対立と協調の可能性

モハメド・アブディン

(学智院大学法学部・特別客員教授)

会場：京都大学稲盛財団記念館3階 中会議室

ナイル川の流域は10か国にまたがるが、その水資源の利用をめぐる古くから諸国間の対立があった。長年、下流のエジプトとスーダンがほとんどの水資源を独占的に利用してきたが、近年には、上流諸国が自国での開発を推進するために、下流諸国に現状変更を促すようになった。2011年には、エチオピアが青ナイルで水力発電ダムの建設に着手したことを皮切りに、流域諸国間の緊張が一層高まった。本報告では、ナイル川の水資源配分レジームに言及しつつ最新の動きを分析する。



MOHAMED ABDIN



241

第241回 2019年2月21日(木) 市場に生きる女性商人の世界： 拡大するアフリカ都市と農作物流通

塩谷 暁代

(京大大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・日本学術振興会特別研究員(PD))

会場：京都大学稲盛財団記念館3階 中会議室

急速な人口増加をともないながら拡大するアフリカ都市。カメルーン首都ヤウンデに散在する市場には、国内産農作物の9割が集まる。200万人を超す都市住民の「食料庫」である市場は、女性商人が活躍する場である。独立以降、都市化がすすむなか、農村から都市にでてきた女性たちは、いかにして都市社会の変動に対処してきたのか。本発表では市場における女性の経済活動に着目し、アフリカ都市社会の動態について考察する。



AKIYO SHIOYA